

第1回

東京川崎病連絡会レポート

日時 平成9年11月22日(土) 会場 日本赤十字社医療センター

この会は、日本で発見され世界で一番患者数の多い川崎病に関して、小児科医、看護婦など川崎病に関わる医療関係者が年に1-2回集い、川崎病に関する情報を交換することにより、川崎病患者の治療やQOLの向上および学問の発展向上をはかるとともに、研究者相互の連携と親睦を含めることを目的として、1997年に設立されました。役員は運営委員を中心に、代表、副代表や若干名の監事・会計で構成されております。

この会の運営方針は、単なる学会形式ではなく、川崎病の日常診療・ケア・研究などで困った問題があったら相談したりすることも出来るあまり堅苦しくない場にしたいとの要望も取り入れるようにしております。日本川崎病研究会以外に近畿や東海をはじめ各地域で同様の目的で研究会が開催されております。

第1回の懇話会は1997年(平成9年)11月22日に、東京都渋谷区広尾の日本赤十字社医療センター外来棟2階講堂で開催されました。特別講演は、川崎病の原著が発表されてから30年の節目に当たり、発見者の川崎富作先生(特別非営利活動法人日本川崎病研究センター理事長)より「川崎病30年」という演題名で講演が行われました。発見の経緯からその後の経過、最新の情報まで幅広い内容でした。特に若手の出席者からは、最近川崎病研究の歴史などを聴く機会も少ないので、色々刺激になったなど大変好評でした。出席者総数は87名で、立ち見の参加者も出るくらいに盛況でした。出席者は関東各都県から参加されており、小児科医のこの疾患に関する関心の高さが現れておりました。

懇話会の後、同センター職員食堂で懇親会も開催されました。発見者の川崎富作先生のみならず、多くの専門家と参加者が一堂に会し、軽食などを賞味しながら、至る所で川崎病に関する情報交換が行われておりました。このような場もとても大切であることを痛感しました。

今後もこの会として参加者のご意見も積極的に取り入れまして、継続的に発展し設立の目的が達成されるように役員一同努力を続ける所存です。

最後に開催に当たり全面的にご協力を頂いた日本製薬に深く感謝致します。

園部 友良